霞　沢　山　山　行　記　録

徳本峠小屋

焼岳

山頂にて

目的地	霞沢岳	期　日	平成２３年７月２２・２３日（金・土）
山行人	笠原正雄・澄子	特　記	穂高連峰展望の山。一時であったが、見渡すことが出来た。

地　点　名	時　刻	記　　事
上高地歩き出し	22 日／12:20	高速利用、途中梓川 SA で「とろろ丼」朝食。沢渡中の足湯東屋でペヤング焼きそば。沢渡下の駐車場より散策夫婦と相乗りタクシーで上高地へ。ターミナル広場で缶ビール１本。お稲荷さんを食べてから歩き出す。
明　神　館	pm1:10～1:20	河童橋を渡り岳沢への入口を確認して、戻って左岸遊歩道を進む。青空は出ているが白い雲が明神岳を覆っている。
徳本峠三叉路	1:25	右折して白沢に沿って樹林帯を進む。単独女が虫に刺されたと手当てしていた。
玉切り倒木	2:15～2:20	腰を下ろして休む。高齢者男女６人隊を追越す。前記単独女が俊足で追越した。
最後の水場	2:45～2:50	支沢の水を２ℓ 余汲んで小屋に向かう。
徳本峠小屋	3:20	手前の三叉分岐から左へ 200m で到着。曇りで展望は全く無い。単独女は幕営。出来て２シーズン目の小屋。２階の寝床を確認してから、旧小屋で自炊。ゴザを貸してもらい、古いが広く快適に夕食。缶詰とフライパンで丸ナス焼き、パスタ。
就　寝	6:00	小屋の夕食は 5:30 から。羽毛掛け布団で快適にバタンキュー。
起　床	23 日／am4:00	まだ暗い。朝食はα飯、生卵、海苔、トマト、鰯甘露煮、味噌漬け。
小屋発歩き出し	5:30	明るくなり一時近くの山が見えたが、ガスが周囲を覆う。僅か樹雨の音を聞く。
重ね着を脱ぐ	5:50	切返しの登りが続く。尾根に上がる道が切ってあったが、対岸はガスで見えない。
ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾋﾟｰｸ	6:25～6:30	足元に 2428m の木札が置いてある。やはりガスのままだが、上空には青空が出始めた。単独女が追越す。下りに入る。この前後ややぬかるんだ道が続く。
小　湿　地	7:00	まだ下っている。間もなく小ピークを乗り越え、平坦路へ経て登りとなる。
K１が見えた	7:25	日差しが出てきた。樹間から前方にピークが見えた。５分後、笹がかぶる道となり、直進が従前の道だが、大きく崩落している。右に迂回路が切ってある。
立ち休み	7:45	急登を上がり、大樹の下で立ち休み。キヌガサソウが群生している。
前穂・吊り尾根・奥穂・ロバの耳	8:00～8:10	右手の展望が開けた所で腰を下ろす。前穂から西穂に連なる稜線が見えた。上空雲が流れて、全部見渡せたのは１～２分程であった。
急登上がり	8:20～8:35	オオヒョウタンボクと撮ってから間も無くルンゼ状の急登が始まる。トラロープや草木の根を掴みながら喘ぐ。稜線に上がって立ち休み。
K１ピーク	8:45～8:50	際立ったピーク。ザック一つがデポしてある。大正池と赤い建物を見下ろす。
K２ピーク	9:05	稜線上を一度大きく下りて登り返す。頂にガスが流れるが焼岳が近付いて来た。ザックデポの男と単独女が下山して来た。
霞沢岳山頂	9:25～10:40	もう一度降ろされて登り返す。廻り込んでハイマツに囲まれた小広場。一隅に三角点。足元に 2646mの木札が置いてあるのみ。2～3m根を乗り越えて焼岳ピークを正面に見ながらフライパンで食パンを焼きランチ。単独男がやって来た。
K１ピーク	11:20	ガスが出てピークの展望は無くなった。焼岳ピークも見えなくなった。下山登路の途中で、梓川の先に常念岳・大天井岳・燕岳を望めた。のち数隊の上山者あり。
ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾋﾟｰｸ	pm1:25～1:30	ガスが広がるが、遠くにぼんやりと市街地が見えた。松本だろうか。
徳本峠手前三叉	2:05	徳本峠 0.2km、明神 3.6km、霞沢岳 4.2km の指導柱標。通過して左に下る。
最後の水場	2:20～2:30	タオルを濡らして顔を拭く。日差しが熱く感じる。
明　神　館	3:35～3:55	日差しはあるが、山の展望は利かない。生ビールジョッキを注文する。
上　高　地	4:35 着	広場中央の蛇口から飲料水を土産代わりに汲む。また、散策の若者夫婦と相乗りタクシーで沢渡へ。昨日の女性タクシー運転手が見送ってくれた。沢渡温泉入浴。

４年前の 10 月、丹後から荒沢を縦走した。丹後の小屋で同泊し、中ノ岳を下るつもりだった前橋高山岳会 OB の黒島・松本両氏を誘って同道した。その２人からこの山の名前を聞き、いつか出掛けたいと思っていた。一昨年の「山渓」夏特別号で掲載されて、その思いが更に高まり今山行となった。上高地からの標高差は 1,100m余、徳本峠からのそれは 500mであるが、ジャンクションピークからの上げ下ろしが頻繁でなかなか骨の折れる山であった。小屋に荷物をデポし軽荷でピストンすれば良いものを、200m取りに戻るのが面倒と思い荷重のまま歩いた。そのせいもある。